



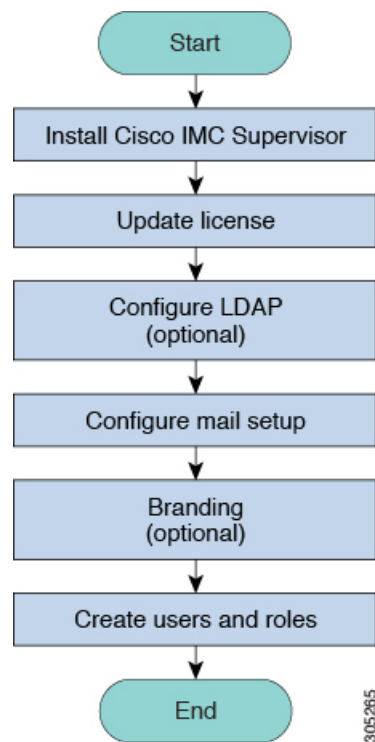
使用する前に

この章は、次の内容で構成されています。

- [概要](#) (1 ページ)
- [Cisco IMC Supervisor の起動](#) (2 ページ)
- [ライセンス タスク](#) (3 ページ)
- [ユーザ アクセス プロファイルの管理](#) (6 ページ)
- [認証および LDAP 統合](#) (8 ページ)
- [LDAP の設定](#) (9 ページ)
- [SCP ユーザの設定](#) (22 ページ)
- [\[Mail Setup\] の設定](#) (23 ページ)
- [Cisco.com のユーザ クレデンシャルの設定とプロキシ設定](#) (23 ページ)
- [CMDB 統合の設定](#) (25 ページ)
- [ブランド表示](#) (26 ページ)
- [\[User Interface Settings\] の設定](#) (27 ページ)

概要

次の図は、Cisco IMC Supervisor を使用した環境設定のワークフローを示しています。



Cisco IMC Supervisor の起動

Cisco IMC Supervisor は正常に正しく設定された IP アドレスで、インストールする必要があります。

始める前に

- Cisco IMC Supervisor が正常にインストールされたことを確認します。
- Cisco IMC Supervisor のインストール時に IP アドレスが設定されていることを確認します。

ブラウザの URL に Cisco IMC Supervisor の IP アドレスを入力して、次のクレデンシャルでログインします。

- [User Name] : **admin**
- [Password] : **admin**

ログイン後、Cisco IMC Supervisor が起動します。Cisco IMC Supervisor のデフォルト ダッシュボード ビューを表示します。

ライセンス タスク

[License] メニューを使用して、ライセンスの詳細とリソースの使用率を確認できます。次のライセンス手順は、[Administration] > [License] メニューから使用できます。

タブ	説明
ライセンス キー	このタブには、Cisco IMC Supervisor で使用されるライセンスの詳細が表示されます。このタブを使用してライセンスを交換および移行することもできます。新しいバージョンの Cisco IMC Supervisor が使用可能な場合は、ライセンスを更新できます。
License Utilization	このタブには、使用中のライセンスおよび各ライセンスの詳細（ライセンスの制限、使用可能期間、ステータス、備考など）が表示されます。ライセンスの監査もこのページから実行できます。 (注) Cisco IMC Supervisor のライセンスはサーバの数に基づきます。Cisco UCS S3260 シャーシは2サーバノードです。このため Cisco IMC Supervisor では、このシャーシのライセンス使用数が2サーバとして見なされます。
Resource Usage Data	このタブには、使用される各種リソースの詳細が表示されます。
Deactivated Licenses	このタブには、非アクティブ化されたライセンスの一覧が表示されます。

ライセンスの更新

Cisco IMC Supervisor の使用を始める前にライセンスを更新するには、次の手順を実行する必要があります。有効なライセンスのリストについては、[ライセンスについて](#)を参照してください。ライセンス キーを生成し、製品アクセス キーを要求し、登録する必要があります。Cisco IMC Supervisor をインストール後、ライセンスが検証され、Cisco IMC Supervisor の使用を開始できます。

始める前に

ライセンスファイルを圧縮ファイルで受け取った場合は、展開して .lic ファイルをローカルマシンに保存します。

ステップ 1 [Administration] > [License] の順に選択します。

ステップ2 [License] ページで、[License Keys] を選択します。

ステップ3 [License Keys] ページで、[Update License] をクリックします。

ステップ4 [Update License] 画面で、次のいずれかを実行します。

- **.lic** ファイルをアップロードするには、[Browse] をクリックして **.lic** ファイルを探して選択し、[Upload] をクリックします。
- ライセンス キーの場合は、[Enter License Text] チェックボックスをオンにし、ライセンス キーのみをコピーして [License Text] フィールドに貼り付けます。ライセンス キーは通常、ファイルの先頭の **Key** -> の後にあります。

ライセンス ファイルのフルテキストをコピーして [License Text] フィールドに貼り付けることもできます。

ステップ5 [送信 (Submit)] をクリックします。

ライセンス ファイルが処理されて、更新の成功を確認するメッセージが表示されます。

ライセンスの交換

この手順を使用すると、システム内のライセンスを交換することができます。このアクションによって、システム上のその他すべての既存のライセンスが非アクティブになります。

ステップ1 [Administration] > [License] の順に選択します。

ステップ2 [License] ページで、[License Keys] を選択します。

ステップ3 [ライセンスの交換 (Replace License)] を選択します。

ステップ4 [Upload License (ライセンスのアップロード)] フィールドで、PAK ファイルをドラッグアンドドロップするか、または [Select a File (ファイルを選択)] をクリックしてファイルを参照して選択します。

ステップ5 (任意) [ライセンステキストの入力 (Enter License Text)] をオンにし、ライセンステキストをコピーして貼り付けます。

ステップ6 [Submit] をクリックします。`

すべての既存のライセンスが新しいライセンスに交換されます。

非アクティブ化されたライセンスの表示

非アクティブライセンスのリストはユーザ インターフェイスから表示できます。非アクティブライセンスに関する次の情報を表示できます。

- PAK ファイル名
- ファイル ID

- ライセンス エントリ
- ライセンス 価格
- Expiry Date
- 非アクティブ化された時刻
- ライセンスを非アクティブ化したユーザの名前

ステップ 1 [Administration] > [License] の順に選択します。

ステップ 2 [License] ページで、[Deactivated Licenses] を選択します。

ステップ 3 すべての非アクティブ ライセンスに関して表示された情報を確認します。

ライセンスの移行

Cisco IMC Supervisor では、グラフィカル ユーザー インターフェイスを使用してライセンスを移行できます。たとえば、永久ライセンスからサブスクリプション ライセンスに移行できます。

ステップ 1 [Administration] > [License] の順に選択します。

ステップ 2 [License] ページで、[License Keys] を選択します。

ステップ 3 [License Keys (ライセンス キー)] ページで [Migrate License (ライセンスの移行)] をクリックします。

ステップ 4 [Upload License (ライセンスのアップロード)] フィールドで、PAK ファイルをドラッグ アンド ドロップするか、または [Select a File (ファイルを選択)] をクリックしてファイルを参照して選択します。

ステップ 5 (任意) [ライセンス テキストの入力 (Enter License Text)] をオンにし、ライセンス テキストをコピーして貼り付けます。

ステップ 6 [Submit] をクリックします。`

ライセンス監査の実行

ライセンス監査を実行するには、次の手順を実行します。

始める前に

ライセンスを更新する必要があります。ライセンスをアップグレードするには、[ライセンスの更新 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 [Administration] > [License] の順に選択します。

ステップ 2 [ライセンス (License)] ページで [ライセンス使用率 (License Utilization)] をクリックします。

- ステップ3 [その他の操作 (More Actions)] ドロップダウンリストから [ライセンス監査の実行 (Run License Audit)] を選択します。
- ステップ4 [ライセンス監査の実行 (Run License Audit)] 画面で、[送信 (Submit)] をクリックします。
このプロセスは完了するまでに時間がかかります。

ユーザアクセス プロファイルの管理

マルチロール アクセス プロファイル

1人のユーザを複数のロールに割り当てることができます。これは、1つのユーザアクセス プロファイルとしてシステム内で反映されます。たとえば、あるユーザが、グループ管理者、および全ポリシーの管理者として Cisco IMC Supervisor にログインしようとした場合、両方のタイプのアクセスが適切であれば、いずれのログインも可能です。アクセス プロファイルは、ユーザごとに表示できるリソースも定義します。

LDAP ユーザを Cisco IMC Supervisor に統合するときにユーザが複数のグループに属している場合、システムにより各グループのプロファイルが作成されます。ただし、デフォルトでは、ドメイン ユーザ プロファイルが LDAP ユーザに追加されます。



(注) [Manage Profiles] 機能を使用して、ユーザアクセス プロファイルに対して追加、ログイン、編集、または削除を行うことができます。

ユーザアクセス プロファイルの作成

- ステップ1 [Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ2 [ユーザとグループ (Users and Groups)] ページで、[ユーザ (User)] をクリックします。
- ステップ3 リストからユーザを選択します。
- ステップ4 [More Actions (その他の操作)] ドロップダウンリストから [Manage Profiles (プロファイルの管理)] を選択します
- ステップ5 [Manage Profile (プロファイルの管理)] ページで、[Add + (追加+)] をクリックします。
- ステップ6 [Add Entry to Access Profiles (アクセス プロファイルへのエントリの追加)] ページで、次のフィールドに入力します。

フィールド名	説明
[Name] フィールド	プロファイル名。
[Description] フィールド	プロファイルの説明です。

フィールド名	説明
[Type] ドロップダウン リスト	ユーザ ロールのタイプを選択します。
[Customer Organizations] ドロップダウン リスト	このユーザプロフィールを適用する組織を選択します。
[Show Resources From All Other Groups the User Has Access] チェックボックス	ユーザがアクセスできるか、属する他のグループすべてのリソースを表示できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[Shared Groups] フィールド	[Select] をクリックして、ユーザプロフィールを適用するグループを選択します。 ユーザは、選択されたグループに関連付けられたすべてのリソースにアクセスできます。
[Default Profile] チェックボックス	デフォルトのユーザ アクセス プロファイルである場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでない場合は、このチェックボックスをオフにします。

ステップ 7 [Submit] をクリックします。`

次のタスク

必要に応じて、追加のユーザ プロファイルを作成します。

プロフィールへのログイン

システムのユーザとして、ユーザアカウントに対して複数のプロフィールがある場合、特定のプロフィールを使用してシステムにログインできます。

ステップ 1 [Cisco IMC Supervisor login (Cisco IMC Supervisor ログイン)] ページの [Username (ユーザー名)] フィールドに、ユーザ名を「ユーザ名: アクセス プロファイル名」の形式で入力します。

例 : Alex: GrpAdmin

ステップ 2 [Password] フィールドにパスワードを入力します。

ステップ 3 [ログイン (Login)] をクリックします。

Default Profile

デフォルト プロファイルは、システムで作成した最初のプロファイルです。デフォルト プロファイルを別のプロファイルに変更できます。新しいデフォルトプロファイルを使用し、ユーザ名とパスワードを入力してログインします。

デフォルト プロファイルの変更

ステップ 1 ユーザ インターフェイスで、右上隅に表示されているユーザ名をクリックします。

ユーザ名は [logout] オプションの左側に表示されます。

ステップ 2 [User Information (ユーザー情報)] ページで、[Access Profiles (アクセス プロファイル)] タブを選択します。

ステップ 3 ユーザ プロファイルを選択し、[Set as Default Profile] をクリックします。

(注) プロファイルは、追加または編集されている間、デフォルトとしても設定できます。

認証および LDAP 統合

LDAP のフォールバックを選択して、認証を設定できます。また、フォールバックを行わない VeriSign ID 保護 (VID) 認証を設定できます。

名前	説明
[Local First, fallback to LDAP]	認証は最初にローカル サーバで実行されます (Cisco IMC Supervisor)。ユーザがローカル サーバにない場合、LDAP サーバが確認されます。
[VeriSign ID保護 (Verisign Identity Protection)]	VIP 認証サービス (2 要素認証) が有効化されます。

認証の環境設定

ログイン認証タイプを変更する場合は、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。

ステップ 2 [Authentication Preferences (認証の環境設定)] を選択します。

ステップ 3 [Authentication Preferences] ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択できます。

- [Local First, fallback to LDAP]

このオプションを選択する場合は、LDAPサーバを設定する必要があります。詳細については、[LDAPサーバの設定（13 ページ）](#)を参照してください。

- [Verisign Identity Protection]：このオプションを選択した場合は、次のステップに進みます。

ステップ 4 [Verisign Identity Protection] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- a) VIP 証明書をアップロードするには、[Browse] をクリックします。
証明書を見つけて選択し、[Upload] をクリックします。
- b) [Password] を入力します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

LDAP の設定

Cisco IMC Supervisor での LDAP の設定には、LDAP 設定の追加と LDAP サーバの設定が含まれます。また、LDAP の接続をテストし、LDAP の概要情報を表示できます。次の項では、これらの手順の実行方法について説明します。

LDAP 統合

LDAP 統合を使用して、LDAP サーバのユーザを Cisco IMC Supervisor と同期できます。LDAP 認証により、同期されたユーザを LDAP サーバで認証することができます。LDAP ユーザを自動または手動で同期できます。LDAP アカウントの追加中に、LDAP アカウントが Cisco IMC Supervisor と自動的に同期される頻度を指定できます。オプションで **LDAPSyncTask** システムタスクを使用して、LDAP 同期を手動でトリガーすることもできます。

手動または自動で新しい組織単位 (OU) が LDAP ディレクトリに追加され、同期プロセスが実行されると、直近に追加された LDAP ユーザが Cisco IMC Supervisor に表示されます。

システムタスクを実行する機能に加えて、Cisco IMC Supervisor には LDAP ディレクトリとシステムを同期するための追加オプションもあります。

[Cleanup LDAP Users] システムタスク：このシステムタスクは、システム内で同期されたユーザが LDAP ディレクトリから削除されたかどうかを判別します。LDAP ディレクトリから削除されたユーザのレコードが存在する場合、このシステムタスクの実行後に、これらのユーザはシステム内で無効としてマークされます。管理者は、これらの非アクティブユーザのリソース割り当てを解除できます。デフォルトでは、このタスクは有効モードになっています。このシステムタスクが無効モードに設定されるのは、サービスを 2 回再起動した後だけです。

ローカルに存在している、または Cisco IMC Supervisor で外部から同期されているユーザは選択できません。



重要 グループ、またはドメイン ユーザのグループに属していないユーザは、[Users with No Group] として LDAP に表示されます。これらのユーザは、Cisco IMC Supervisor のドメイン ユーザのグループの下に追加されます。

異なる LDAP サーバアカウントに所属し、同じ名前を持った LDAP ユーザを追加できます。複数のユーザ レコードを区別するために、ログイン ユーザ名の末尾にドメイン名が追加されます。たとえば、abc@vxedomain.com などです。このルールは、ユーザグループにも適用されます。

単一の LDAP アカウントが追加され、ユーザがユーザ名のみを指定してログインすると、Cisco IMC Supervisor は最初にそのユーザがローカルユーザまたは LDAP ユーザのどちらであるかを判別します。ユーザがローカルユーザおよび外部 LDAP ユーザの両方として識別された場合、ログイン段階でユーザ名がローカルユーザ名に一致すると、そのローカルユーザが Cisco IMC Supervisor に対して認証されます。あるいは、ユーザ名が外部ユーザの名前に一致すると、その LDAP ユーザが Cisco IMC Supervisor に対して認証されます。

LDAP 統合の規則と制限事項

グループの同期規則

- 選択した LDAP グループが Cisco IMC Supervisor にすでに存在しており、ソースのタイプが [Local] の場合、そのグループは同期中に無視されます。
- 選択した LDAP グループが Cisco IMC Supervisor にすでに存在しており、グループ ソースのタイプが [External] の場合、そのグループの説明および電子メール属性が Cisco IMC Supervisor で更新されます。
- LDAP サーバを追加するには、ユーザ フィルタとグループ フィルタを指定できます。グループ フィルタを指定すると、指定したグループに属するすべてのユーザがシステムに追加されます。さらに、次のような操作も行えます。
 - 指定したグループにサブグループが含まれている場合には、グループ、サブグループ、およびそれらのサブグループ内のユーザがシステムに追加されます（これが該当するのは、手動で LDAP ディレクトリを同期した場合のみです）。
 - ユーザが複数のグループの一部であり、グループ フィルタとして指定されたグループに他のグループが一致しない場合、それらの追加グループはシステムに追加されません。
- ユーザは複数のユーザグループに属することができます。ただし、ユーザが属しているグループ リストで最初に表示されているグループは、ユーザのデフォルトのプライマリ グループとして設定されます。ユーザがどのグループにも属していない場合は、デフォルトのプライマリ グループが [Domain Users] として設定されます。



(注) ユーザが属するすべてのグループに関する情報は、**LDAPSyncTask** システム タスクの実行後にのみ表示できます。

- LDAP グループを同期すると、グループ内のすべてのユーザが最初にシステムに追加されます。また、指定された LDAP グループ内のユーザが同じ OU 内の（または異なる OU 内の）他のグループに関連付けられている場合には、それらのグループも取得され、システムに追加されます。
- LDAP 同期プロセスでは、指定された LDAP グループが取得されてシステムに追加されると共に、ネストされたグループがあれば併せて追加されます。
- このリリースより前のリリースでは、ユーザは 1 つのグループにのみ属していました。ユーザが属するその他のグループは、最新リリースにアップグレードし、[LDAPSyncTask] システム タスクを実行した場合にのみ、[Manage Profiles] ダイアログボックスに表示されます。これは、他のグループが、LDAP サーバの設定時に指定したグループフィルタの条件に一致する場合のみ該当します。

ユーザの同期規則

- 名前に特殊文字が含まれている LDAP ユーザは Cisco IMC Supervisor に追加されます。
- LDAP サーバを追加する際には、ユーザ フィルタとグループ フィルタを指定できます。ユーザ フィルタを指定すると、指定したフィルタに一致するすべてのユーザと、それらのユーザが属するグループが取得され、システムに追加されます。
- Cisco IMC Supervisor では、システムに追加された各ユーザのユーザプリンシパル名 (UPN) が表示されるようになりました。これは、以前のリリースでシステムに追加されたユーザに適用可能です。ユーザは、ログイン名またはユーザプリンシパル名を使用してシステムにログインできます。プロファイル名とともにユーザプリンシパル名を使用してのログインはサポートされていません。
- 選択した LDAP ユーザが Cisco IMC Supervisor にすでに存在しており、ソースのタイプが [Local] の場合、そのユーザは同期中に無視されます。
- 選択した LDAP ユーザが Cisco IMC Supervisor にすでに存在しており、ソースのタイプが [外部] の場合、そのユーザの名前、説明、電子メール、および他の属性が更新されて使用できるようになります。
- ユーザ アカウントが 2 つの異なる LDAP ディレクトリに作成されると、最初に同期された LDAP ディレクトリのユーザの詳細が表示されます。もう一方の LDAP ディレクトリからのユーザの詳細は表示されません。
- 複数の LDAP ディレクトリが同期された後、LDAP 外部ユーザーは、完全なドメイン名をユーザー名と共に指定して Cisco IMC Supervisor にログインする必要があります。たとえば、vxedomain.cisco.com/username など。ただし、Cisco IMC Supervisor に追加されている LDAP サーバ ディレクトリが 1 つしかない場合には、この規則は適用されません。

ユーザ同期の制限事項

- あるユーザが複数のグループメンバーシップを持っていても、そのユーザは Cisco IMC Supervisor では単一のグループメンバーシップを持つことになります。



- (注)
- Cisco IMC Supervisor 内のユーザとグループ（ローカルと LDAP の両方）の合計数を 10,000 以下に保つことをお勧めします。この数値を超えると、アプライアンスが遅くなったり応答しなくなることがあります。
 - LDAP 同期プロセスの後に、ユーザが正しいグループに割り当てられていることを確認します。

ベストプラクティス

何千もの LDAP オブジェクトを Cisco IMC Supervisor に同期させると、アプライアンスのパフォーマンスに問題が発生する可能性があります。必要な LDAP オブジェクトのみを同期するには、次の手順を実行します。

1. Cisco IMC Supervisor へのアクセス権が必要なすべてのユーザを含む LDAP グループを作成します。
2. それらのグループのみを Cisco IMC Supervisor に同期します。

LDAP 設定の追加

LDAP 設定を追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [LDAP Integration] を選択します。

ステップ 2 LDAP 設定を追加するには [+] をクリックします。

ステップ 3 [Add LDAP Configurations (LDAP 設定の追加)] ページで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Account Name] フィールド	LDAP アカウント名。
[Server Type] ドロップダウン リスト	Microsoft Active Directory または Open LDAP を選択します。
[Server] フィールド	サーバのホスト名または IP アドレス。
[Enable SSL] チェックボックス	LDAP サーバへのセキュアな接続をイネーブルにします。
[Port] フィールド	ポート番号 SSL の場合は 636 に、非セキュアモードの場合は 389 に自動的に設定されます。
[Domain Name] フィールド	LDAP ユーザのドメイン名。

フィールド	説明
[Username] フィールド	LDAP ユーザの名前を入力します。
[Password] フィールド	ユーザ名に関連付けられるパスワードを入力します。
[Synchronization Frequency] ドロップダウンリスト	LDAP サーバが同期される頻度（時間）を選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 • 4 • 12 • 24

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 **[LDAP Search Base (LDAP 検索ベース)]** ページで **[Select (選択)]** をクリックし、表示されているテーブルから OU に基づいてユーザーを取得するための検索条件を選択します。

(注) Cisco IMC Supervisor ユーザーはサポートされていますが、グループはサポートされていません。[OU] に基づく検索条件は必須ではありません（ユーザとグループの両方が含まれる可能性があります）。システム同期更新タスクが 24 時間ごとに実行され、検索基準に基づいて LDAP ユーザが同期更新されます。このため、ユーザ情報のみの手動同期を実行する必要があります。LDAP の手動同期を実行するには、[LDAP の手動同期のリクエスト \(18 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 6 [Select] ダイアログボックスで [Select] をクリックします。
選択済みの検索条件が、[Search Base] フィールドの横に表示されます。

ステップ 7 [LDAP Search Base] ダイアログボックスで [Next] をクリックします。

ステップ 8 [LDAP User Role Filter] ダイアログボックスでユーザ ロール フィルタ テーブルにエントリを追加するには、[+] をクリックします。

ステップ 9 [Add Entry to User Role Filters] ダイアログボックスで、ユーザ ロールの詳細を入力します。

ステップ 10 [送信 (Submit)] をクリックします。

これらのフィルタを編集または削除することができます。また、上/下矢印を使ってフィルタを移動すると、優先順位を設定できます。

ステップ 11 [LDAP User Role Filter] ダイアログボックスで、[Submit] をクリックします。

LDAP サーバの設定

Cisco IMC Supervisor では複数の LDAP サーバとアカウントを設定できます。LDAP アカウントを追加するときに、次の項目を指定できます。

- 検索ベース識別名 (DN) に含まれる組織単位 (OU)。
- LDAP アカウントがシステムと自動的に同期される頻度。
- 結果の数を制限し、グループおよびユーザに対する LDAP ロール フィルタを指定するグループ フィルタまたはユーザ フィルタ。

LDAP サーバアカウントが追加されると直ちにこのアカウントのシステム タスクが自動的に作成され、データ同期を即時に開始します。LDAP サーバアカウントのすべてのユーザとグループがシステムに追加されます。デフォルトでは、LDAP アカウントのすべてのユーザに対して、自動的にサービス エンドユーザ プロファイルが割り当てられます。

始める前に

認証設定を [Local First, fallback to LDAP] に設定しておく必要があります。

ステップ 1 [Administration] > [LDAP Integration] を選択します。

ステップ 2 [Add] をクリックします。

ステップ 3 [LDAP Server Configuration (LDAP サーバ設定)] ページで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[アカウント名 (Account Name)] フィールド	アカウント名。 この名前は一意である必要があります。
[Server Type] フィールド	LDAP サーバのタイプ。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • OpenLDAP • MSAD - Microsoft Active Directory
[Server] フィールド	LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名。
[Enable SSL] チェックボックス	LDAP サーバへのセキュアな接続をイネーブルにします。
[Port] フィールド	ポート番号 SSL の場合は 636 に、非セキュア モードの場合は 389 に自動的に設定されます。

名前	説明
[Domain Name] フィールド	ドメイン名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、このドメイン名が、ユーザ名で指定されたドメインと一致している必要があります。 重要 完全なドメイン名を指定する必要があります。たとえば、 <code>vxedomain.com</code> などです。
[Username] フィールド	ユーザ名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、ユーザ名を次の形式で指定してください。 uid=users,ou=People,dc=ucsd,dc=com ここに指定する ou は、ディレクトリ階層でその他のすべてのユーザが配置される場所です。
[Password] フィールド	ユーザのパスワード。
[Synchronization Frequency] ドロップダウン リスト	LDAP サーバが同期される頻度（時間）を選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 • 4 • 12 • 24

ステップ 4 [Next] をクリックします。

ステップ 5 [LDAP Search Base] ペインで、[Select] をクリックして LDAP 検索ベースのエントリを指定し、[Select] をクリックします。

このリストには、Cisco IMC Supervisor で利用できるすべての組織単位（OU）が表示されます。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Configure User and Group Filters] ペインで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[User Filters]	[+] 記号をクリックして、システムと同期する必要がある特定のユーザを選択します。 選択したユーザが属するグループがすべて取得され、システムに追加されます。

名前	説明
[Group Filters]	[+] 記号をクリックして、システムと同期する必要があるグループを選択します。 選択したグループに属すユーザがすべて取得されて、システムに追加されます。ただし、選択したグループのユーザが選択していないその他のグループにも属している場合、それらのグループは、このフィールドで選択されている場合を除き取得されません。
[Add Entry to User Filters] または [Add Entry to Group Filters] ダイアログボックス（前の選択に応じて表示されます）	
[Attribute Name] ドロップダウン リスト	[Group Name] または [User Name] を選択します。
[Operator] ドロップダウン リスト	グループおよびユーザを取得する際に適用するフィルタを選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 次に等しい • 開始
[Attribute Value] フィールド	検索に含めるキーワードまたは値を指定します。

フィルタに基づいて、グループまたはユーザが取得されます。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ 9 [LDAP User Role Filter] ペインで、[+] 記号をクリックして、ユーザ ロール フィルタを追加します。

ステップ 10 [Add Entry to User Role Filters] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Attribute Name] フィールド	属性の名前。これには、 グループ名 を指定できます。
[Operator] ドロップダウン リスト	ドロップダウンリストは次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • 等しい • 開始 (Starts with)
[Attribute Value] フィールド	このフィールドで値を指定します [Operator] フィールドと [Attribute Value] フィールドの値に一致するすべてのユーザが、[Map User Role] ドロップダウンリストで選択するユーザ ロールに割り当てられます。

名前	説明
[Map User Role] ドロップダウンリスト	ユーザのマップ先とするユーザ ロールを選択します。デフォルトで使用可能だったロールを選択するか、またはシステムで作成されたロールを選択できます。 Cisco IMC Supervisor に用意されているデフォルトのロールは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• グループ管理者• オペレーター• システム管理者

ステップ 11 [送信 (Submit)] をクリックします。

ユーザ ロール フィルタが [User Role Filters] テーブルに追加されます。

(注) 複数のユーザ ロール フィルタが指定されている場合は、最初の行に指定したフィルタが処理されます。

ユーザのロールを手動で更新すると、そのユーザには、グループをマップしたユーザ ロールが適用されなくなります。

次のタスク

LDAP に認証設定を設定していない場合は、認証設定を変更するように求めるプロンプトが表示されます。「[認証の環境設定 \(8 ページ\)](#)」を参照してください。

LDAP サーバのサマリー情報の表示

LDAP サーバの概要情報を表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [LDAP Integration] を選択します。

ステップ 2 テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。

ステップ 3 [View] をクリックします。

[View LDAP Account Information] 画面には、LDAP アカウントの概要情報が表示されます。

ステップ 4 [閉じる (Close)] をクリックします。

LDAP サーバの接続のテスト

LDAP 接続をテストするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [LDAP Integration] を選択します。

ステップ 2 テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。

ステップ 3 [Test Connection] をクリックします。

接続のステータスが表示されます。

ステップ 4 [Test LDAP Connectivity] ダイアログボックスで、[Close] をクリックします。

ベース DN の検索

ベース DN を検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [LDAP Integration] を選択します。

ステップ 2 [Search BaseDN] をクリックします。

(注) Cisco IMC Supervisor ユーザーはサポートされていますが、グループはサポートされていません。
[OU]に基づく検索条件は必須ではありません（ユーザとグループの両方が含まれる可能性があるためです）。

ステップ 3 [LDAP Search Base] ダイアログボックスの [Select] をクリックします。

ステップ 4 1人以上のユーザを選択して、[Select] ダイアログボックスの [Select] をクリックします。

ステップ 5 [LDAP Search Base] ダイアログボックスの [Submit] をクリックします。

LDAP の手動同期のリクエスト

LDAP の手動同期のリクエストでは、LDAP ユーザおよびグループを取得するための基本検索条件または詳細検索条件を指定できます。LDAP の手動同期を行うには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [LDAP Integration] を選択します。

ステップ 2 [Request Manual LDAP Sync] をクリックします。

ステップ 3 [Manual LDAP Sync (手動 LDAP 同期)] ページで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Basic Search] チェックボックス	組織単位で基本検索をイネーブルにします。

名前	説明
[Advanced Search] チェックボックス	詳細検索をイネーブルにします。

(注) いずれかの検索オプションを使用する時点ですでにユーザおよびグループが Cisco IMC Supervisor に存在する場合、検索を実行しても同じユーザとグループは読み込まれません。

ステップ 4 基本検索の場合は、[Select] をクリックして検索ベースを指定します。

ステップ 5 検索ベース DN を選択し、[Select] をクリックして、ステップ 9 に進みます。

ステップ 6 詳細検索の場合は、[Advanced Filtering Options] ペインで、[User Filters] と [Group Filters] の属性名を追加または編集します。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

ステップ 8 [Select Users and Groups (ユーザーとグループの選択)] ページで、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[LDAP Groups] フィールド	ユーザが同期する必要がある LDAP グループ。
[LDAP Users] フィールド	同期する必要がある LDAP ユーザ。

ステップ 9 [送信 (Submit)] をクリックします。

[Administration (管理)] > [Users and Groups (ユーザーとグループ)] を選択し、[ユーザー (Users)] をクリックして同期されたユーザーを確認します。

LDAP 同期の実行と LDAP 同期結果の表示

LDAP の同期を実行し、結果を表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [System] を選択します。

ステップ 2 [システム (System)] ページで、[システムのタスク (System Tasks)] をクリックします。

ステップ 3 [User and Group Tasks] を展開し、[LDAPSyncTask] を選択します。

ステップ 4 [Run Now] をクリックします。

ステップ 5 [Submit] をクリックします。

ステップ 6 (任意) [Manage Task] をクリックして、同期プロセスを有効または無効にします。

次のタスク

同期プロセスの結果が Cisco IMC Supervisor に表示されます。[LDAP Integration] ページで、LDAP アカウントを選択し、[Results] をクリックして同期プロセスの概要を表示します。

LDAP サーバの詳細の変更

設定済みの LDAP サーバに対し変更できるのは次の詳細情報のみです。

- ポート番号と SSL 設定
- ユーザ名とパスワード
- 同期頻度
- 検索ベース DN の選択内容
- マッピングされたユーザ ロールとグループ

LDAP サーバの詳細を変更するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [Administration] > [LDAP Integration] を選択します。
- ステップ 2 LDAP アカウントを選択します。
- ステップ 3 [Modify] をクリックします。
- ステップ 4 [LDAP Server Configuration (LDAP サーバ設定)] ページで、次のフィールドを編集します。

名前	説明
[Enable SSL] チェックボックス	LDAP サーバへのセキュアな接続をイネーブルにします。
[Port] フィールド	ポート番号 SSL の場合は 636 に、非セキュア モードの場合は 389 に自動的に設定されます。
[Username] フィールド	ユーザ名。 LDAP ディレクトリのタイプとして [OpenLDAP] を選択した場合は、ユーザ名を次の形式で指定してください。 uid=users,ou=People,dc=ucsd,dc=com ここに指定する ou は、ディレクトリ階層でその他のすべてのユーザが配置される場所です。
[Password] フィールド	ユーザのパスワード。

名前	説明
[同期頻度 (Synchronization Frequency)] ドロップダウンリスト	LDAP サーバがシステム データベースと同期される頻度 (時間単位) を選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 • 4 • 12 • 24

- ステップ 5 [Next] をクリックします。
- ステップ 6 [LDAP Search Base] エントリを編集し、[Next] をクリックします。
- ステップ 7 [User Filters] および [Group Filters] テーブルで必要な属性を選択して編集し、[Next] をクリックします。
- ステップ 8 [LDAP User Role Filter] テーブルでエントリを選択して編集します。
- ステップ 9 上矢印と下矢印を使用して、テーブル エントリの追加、編集、削除、または移動をクリックします。
- ステップ 10 [Submit] をクリックします。

グループメンバーシップ情報の表示

システム内のユーザは、複数のユーザグループに属することができます。ユーザがシステムに追加されると、ユーザが属するすべてのグループもシステムに追加されます。ただし、最後にユーザが追加されたグループは、そのユーザのデフォルトのプライマリグループとして設定されます。ユーザがどのグループにも属していない場合は、デフォルトのプライマリグループが [Domain Users] として設定されます。[Manage Profiles (プロファイルの管理)] オプションを使用して、ユーザーのグループメンバーシップを表示し変更することができますが、Cisco IMC Supervisor では特定のユーザーが属しているすべてのグループのリストを表示する追加オプションもあります。

- ステップ 1 [Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
- ステップ 2 [Users] をクリックします。
- ステップ 3 テーブルからユーザを選択します。
- ステップ 4 [Group Membership] をクリックします。
- [Member Of] 画面に、ユーザが属するすべてのグループが表示されます。
- ステップ 5 [閉じる (Close)] をクリックします。

LDAP サーバ情報の削除

LDAP サーバのアカウントを削除すると、検索基準、BaseDN および対象の LDAP サーバに関するシステムエントリのみが削除されます。LDAP サーバに割り当てられているユーザは削除されません。LDAP サーバ情報を削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。

ステップ 2 [LDAP Integration (LDAP 統合)] を選択します。

ステップ 3 テーブルから LDAP のアカウント名を選択します。

ステップ 4 [Delete] をクリックします。

ステップ 5 確認のダイアログボックスで [Delete] をクリックします。

これにより、Cisco IMC Supervisor 内の LDAP アカウントの削除が開始されます。LDAP アカウント内のユーザ数によって、この削除プロセスが完了するまでに数分かかる場合があります。この間、LDAP アカウントが Cisco IMC Supervisor に表示され続ける場合があります。[Refresh] をクリックして、アカウントが削除されたことを確認します。

SCP ユーザの設定

SCP ユーザーは、サーバ診断やテクニカルサポートのアップロード操作で、SCP プロトコルを使用して Cisco IMC Supervisor アプライアンスにファイルを転送する際に使用されます。SCP ユーザアカウントは、Cisco IMC SupervisorUI または shelladmin へのログインには使用できません。scp ユーザパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. [Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。
2. [SCP User Configuration (SCP ユーザー設定)] をクリックします。
3. [Password] フィールドに scp ユーザパスワードを入力します。
4. [Submit] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。

ステップ 2 [SCP User Configuration (SCP ユーザー設定)] をクリックします。

ステップ 3 [Password] フィールドに scp ユーザパスワードを入力します。

ステップ 4 [Submit] をクリックします。

[Mail Setup] の設定

Cisco IMC Supervisor から送信されるすべての電子メールに SMTP サーバが必要です。障害のアラートなどの Cisco IMC Supervisor によって生成される電子メールは、次の手順を使用して設定した電子メール設定に送信されます。電子メールアラートのルールを追加する方法の詳細については、[サーバ障害に関する電子メールアラート ルールの追加](#) を参照してください。

ステップ 1 [Administration] > [System] を選択します。

ステップ 2 [Mail Setup (電子メール設定)] をクリックします。

ステップ 3 [Mail Setup (電子メール設定)] ページで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Outgoing Email Server (SMTP)]	サーバの IP アドレスまたはドメイン名。
[Outgoing SMTP Port]	SMTP サーバのポート番号。
[Outgoing SMTP User]	(オプション) SMTP 認証で使用する送信 SMTP ユーザ ID。
[Outgoing SMTP Password]	(オプション) SMTP 認証で使用する送信 SMTP ユーザ ID のパスワード。
[Outgoing Email Sender Email Address]	Cisco IMC Supervisor によって生成される送信電子メールの送信者アドレス。
サーバ IP アドレス	Cisco IMC Supervisor を実行しているサーバの IP アドレス。
[Send Test Email] チェックボックス	設定されたアドレスにテストメールを送信するには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco.com のユーザ クレデンシャルの設定とプロキシ設定

Cisco ユーザ クレデンシャルおよびプロキシの詳細は、[Administration (管理)] > [System (システム)] から設定できます。Cisco.com のユーザ クレデンシャルとプロキシ クレデンシャルは、アプリケーション全体の設定です。これらのクレデンシャルは、ファームウェアイメージのダウンロードと Cisco IMC Supervisor の更新に自動的に使用されます。Cisco Smart Call Home でも、これらのプロキシの詳細を使用します。

Cisco.com ユーザの設定

Cisco.com のユーザ名とパスワードを設定する場合は、次の手順を実行します。

ステップ1 [Administration] > [System] を選択します。

ステップ2 [System] ページで、[Cisco.com User Configuration] をクリックします。

ステップ3 Cisco.com ユーザーを設定するため、次のフィールドに情報を入力します。

フィールド	説明
[User Name (cisco.com)] フィールド	シスコのログイン ユーザ名を入力します。
[Password (cisco.com)] フィールド	シスコのログインパスワードを入力します。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

プロキシ設定

プロキシ設定を構成する場合は、次の手順を実行します。

ステップ1 [Administration] > [System] を選択します。

ステップ2 [System] ページで、[Proxy Configuration] をクリックします。

ステップ3 次の項目を入力してプロキシを設定します。

フィールド	説明
[Enable Proxy Configuration] チェックボックス	<p>(任意) このチェックボックスをオンにしてプロキシを有効化し、次の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Host Name] フィールド: プロキシ設定用のホスト名を入力します。 • [Port] フィールド: プロキシ設定用のポートを入力します。
[プロキシ認証の有効化 (Enable Proxy Authentication)] チェックボックス	<p>(任意) このチェックボックスをオンにしてプロキシ認証を有効化し、次の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プロキシユーザ名 (Proxy User Name)] フィールド: プロキシ認証用のプロキシユーザ名を入力します。 • [Proxy Password] フィールド: プロキシユーザ名のパスワードを入力します。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

CMDB 統合の設定

構成管理データベース (CMDB) は、システムの変更を追跡および管理するために使用されます。CMDB には通常、サービス リクエスト、グループなどのリソースに対する追加、削除、または変更のイベント タイプが表示されます。

ステップ1 [Administration] > [Integration] の順に選択します。

ステップ2 [統合 (Integration)] ページで、[CMDB 統合設定 (CMDB Integration Setup)] をクリックします。

ステップ3 [CMDB 統合設定 (CMDB Integration Setup)] 画面で、次を含む必須フィールドに値を入力します

名前	説明
[FTP サーバにエクスポート (Export to FTP Server)] チェック ボックス	FTP サーバに変更記録をエクスポートするには、このチェック ボックスをオンにします。
[エクスポート形式 (Export Format)] ドロップダウン リスト	エクスポート形式の種類 (CSV または XML) を選択します。
[FTP Server] フィールド	FTP サーバのアドレス。
[FTP Port] フィールド	FTP サーバ ポート番号。
[FTP User] フィールド	FTP ユーザ ID。
[FTP パスワード (FTP Password)] フィールド	FTP ユーザ パスワード。
[FTP Export Frequency] ドロップダウン リスト	変更記録を FTP サーバにエクスポートする頻度を選択します。
[FTP File Name] フィールド	エクスポートされる変更記録のファイル名。ファイルがターゲット FTP サーバにエクスポートされるたびに、次の変数を使用して新しいファイル名を作成できます。 MONTH、WEEK、DAY、YEAR、HOUR、MIN、SEC、MLLIS 例：XYZ-\$DAY-\$HOUR-\$MIN-\$SEC
[FTP のテスト (Test FTP)] チェック ボックス	FTP の設定をテストするには、このチェックボックスをオンにします。

ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。

ブランド表示

ログインページは、ドメイン名に関連付けられているロゴを示すように設定できます。エンドユーザーがそのドメインからログインすると、ログイン ページでそのカスタム ロゴが表示されます。ロゴの最適なイメージのサイズは幅 890 ピクセル、高さ 470 ピクセルで、余白に 255 ピクセルが割り当てられています。シスコは、より高速なダウンロードを実現するために、イメージサイズを小さくすることを推奨しています。

新しいログイン ブランディング ページの追加

新しいログインブランディング ページを追加する場合は、次の手順を実行します。

ステップ1 [Administration] > [Users and Groups] の順に選択します。

ステップ2 [Login Page Branding (ログイン ページ ブランディング)] をクリックします。

ステップ3 [Add] をクリックします。

ステップ4 [Domain Branding (ドメイン ブランディング)] ページで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Domain Name] フィールド	<p>ブランディング用のドメイン名。たとえば、imcs.xxxx.com のようになります。</p> <p>(注) ローカル マシンでドメイン名を作成するには、C:\Windows\System32\drivers\etc に移動して、ホスト ファイルで <ipaddress> と <domainname> を指定します。たとえば、10.10.10.10 imcs.xxxx.com のようになります。</p>
[Custom Domain Logo] チェックボックス	<p>(オプション) ロゴを追加する場合は、このチェックボックスをオンにして、以下を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Browse] をクリックします。 2. ロゴに移動してファイルを選択します。 3. [Open] をクリックします。

ステップ5 [Submit] をクリックします。

ステップ6 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

(注) 作成したカスタマイズ済みのログインページを編集、削除、複製できます。

[User Interface Settings] の設定

Cisco IMC Supervisor アプリケーションをカスタマイズするには、次の手順を使用します。要件に基づいて、アプリケーションヘッダー、管理者およびエンドユーザのポータルを変更できます。ロゴ、アプリケーション名、ログアウトなどのリンクを含むヘッダーも非表示にできます。

ステップ 1 [Administration] > [User Interface Settings] を選択します。

ステップ 2 [User Interface Settings (ユーザー インターフェイス設定)] ページで、次を実行します。

フィールド	説明
[Hide Entire Header] チェックボックス	このチェックボックスを使用して、ヘッダーを有効または無効にします。
[Product Name] フィールド	ヘッダーのメインタイトル。
[Product Name 2nd Line] フィールド	ヘッダーのサブタイトル。
[Enable About Dialog] チェックボックス	このチェックボックスを使用して、Cisco IMC Supervisor の [About] ダイアログボックスを有効または無効にします。
管理者ポータル	
[Custom Link 1 Label] フィールド	ヘッダーバーのテキストを変更するには、このフィールドを設定します。
[Custom Link 1 URL] フィールド	カスタムリンク 1 ラベルの URL を設定できます。
[Custom Link 2 Label] フィールド	ヘッダーバーのテキストを変更するには、このフィールドを設定します。
[Custom Link 2 URL] フィールド	カスタムリンク 2 ラベルの URL を設定できます。
エンドユーザポータル	
[Custom Link 1 Label] フィールド	ヘッダーバーのテキストを変更するには、このフィールドを設定します。
[Custom Link 1 URL] フィールド	カスタムリンク 1 ラベルの URL を設定できます。
[Custom Link 2 Label] フィールド	ヘッダーバーのテキストを変更するには、このフィールドを設定します。

フィールド	説明
[Custom Link 2 URL] フィールド	カスタム リンク 2 ラベルの URL を設定できます。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。
